

キャラクター名
宮崎 利和

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	中学生
	オプション		年齢	15	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	加虐		初期侵食率	31 %
出自	犯罪者の子	経験	記憶喪失	邂逅	同行者：玉野椿	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	5	0	0	1		6	行動値	3
感覚	0	1	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	2	0	0			2	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	2		RC	3		交渉		
回避	1		知覚	2		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲：	0	合計回避：	0
コネ：噂好きの友人					
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
亜純血	P	N			
宮崎家 家族	P 慈愛	N 悔悟			
我天さん	P 有為	N 嫌悪			
	P 親近感	N 隔意			
	P 執着	N 嫌悪			
	P 好奇心	N 隔意			
	P 好奇心	N 偏愛			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
魔獣の本能	1	2	メジャー	-	-	RC	-	
効果： 判定を【肉体】で行える。								
コンセントレイト：キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果： C値-Lv								
焦熱の弾丸	2	1	メジャー	視界	-	RC	-	
効果： 攻撃力+(Lv+2) の射撃攻撃								
クロスバースト	3	4	メジャー	-	-	シンドローム	80↑	
効果： 攻撃力+Lv*4								
プラズマカノン	3	4	メジャー	視界	単体	RC	100↑	
効果： 攻撃力+Lv*5 の射撃攻撃								
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 【肉体】ダイス 判定+ (Lv+2) 個								
結合粉碎	1	4	メジャー	-	-	シンドローム	ピュア	
効果： 判定ダイス+Lv 装甲無視								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 飛行状態での戦闘移動 +2m								
災厄の炎	3	4	メジャー	至近	範囲選択	RC	-	
効果： 攻撃力+[Lv*3]								
至上の毛並み	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： もふもふの証。触り心地が良い。								
鋭敏感覚	1	-	メジャー	-	-	自動	-	
効果： ケモ耳。周囲の状況変化に敏感になったり、探索できたりする。								
温度調節	1	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果： 料理上手。温度管理が達人の域。								
効果：								

みやざき とわ 西彩中学3年 西彩支部所属UGNチルドレン
成長期で最近身長が伸びてきている。
キュマイラ/サラマンダーのクロスブリード。
獣化：フェネック。涼しい顔で業火を放つ。
たまに獣の姿で学校の裏の山で丸まって寝ている。
好きなものは甘い卵焼き。得意料理はハンバーグ。

10年前の3月。春も近いのに空気が冷たかった。
彼が5歳の時にある事故によって事故以前の記憶を失い、UGNへ引き取られた。名前を尋ねられた時に「トロワ」と自らを称したことから、「利和」と。
千尋には養子として引き取られ、ここまで育ててもらい感謝している。最近是不器用な千尋の料理のお手伝いを始めた。ピーラーでの皮むきを頼んで食材を切るのを請け負い、砂糖と塩を間違えそうな時はそっと砂糖を手渡す。卵焼きの殻は食べる。火傷した時は処置をする。

ある研究所の一室。ぼくは「トロワ」…3ばんめなんだって。なんの3ばんめだったんだろう？ぼくの首のところに「trois」って。じゃうずにおもいだせないな。ぼくはだれかと「いっしょにここからいげよう」ってきつとやくそくしていたのに。

―――そうか、「おとうさん」と「おかあさん」はわるいひとだったんだね。

引き取られてから3年経って、それは夢だったのか、記憶だったのか。今日を過ごす「かそく」は、自分にはふさわしくないものだど唐突に理解した。僕の転機はいつも「3」だ。それから、なんとなく、優しい母さんと姉さんとともに上手に喋れなくなった。それからまた3年。家族とずっと上手に話せない僕に、悪意のない友達が言ったんだ。「お前とかーちゃん似てねえな」だって。ストンってなにかが抜け落ちた気がしたんだ。そうだよ、だって僕は。